

農業という職業に誇りを持ち  
その魅力を伝えられる農家になりたいです。



# 農業に懸ける情熱



## 1 就農したきっかけ

両親が農業を営んでいたため、幼い頃から農作業を手伝う機会が多く、「いずれ自分が農業を継ぐのだろう」という思いを漠然と抱いていました。高校時代には精米作業やトラクターでの作業補助なども行い、農業は生活の一部として当たり前存在していました。高校卒業後は青森県の大学で農業経済学を学び、卒業後は社会経験を積むため、岩手県で路線バスの運転手として就職しました。最終的には農業を継ぐことを決めていたため、3年間の勤務を経て地元へ戻り、25歳で就農しました。

## 2 就農当時のこと

農業に携わることに対して特に抵抗はありませんでしたが、実際に就農してみるとこれまでの手伝いでは関わらなかつた仕事も多く、戸惑うことが多々ありました。高校生の頃からほ場でトラクターに乗っていました。就農してから扱うようになった機械は当時よりも大きなものになっており、仕事で大型バスを運転していたとはいえ、操作に慣れるまでは苦労しました。

さらに、草刈りなどの地域で協力して進める取り組みの多さにも驚かされました。今までは気づかなかつた地域のつながりを知り、そこで交わされる情報は、就農したばかりの自分にとって非常に貴重な学びとなりました。



## 3 仕事をするうえで大変なこと

昨年の1月に父から経営を引き継ぎ、農業経営の責任を担う立場になりました。農作業だけでなく、費用計算などの事務作業や、これまで父が参加していた地域や部会の集まりにも出るようになり、慣れないことに戸惑う場面も多くあります。そんな時は父に助言をもらいながら、少しずつ経営者として必要な知識を身に付けているところです。自分が農業経営の中心に立つという状況はまだ慣れていませんが、着実に経験を積み、周囲の経営者のように新しい取り組みにも挑戦できるようになりたいと思っています。

## 4 青年部活動について

地元の先輩に声をかけてもらったことをきっかけに、就農とほぼ同時に青年部へ加入しました。青年部に入ったことで人とのつながりが広がり、さまざまな情報を共有できるようになったことは、非常に大きな支えとなりました。

今年からは岩見沢支部の役員と三笠班の班長を務めることになりました。三笠班は6人と小規模ではありますが、その分、結束力を大切にしながら、活動を盛り上げていきたいと考えています。今後は運営側として、盟友がより楽しく、積極的に参加できる環境づくりに力を注ぎ、青年部活動に前向きに取り組んでいきたいです。

## 5 目指す農家像

農業という仕事に誇りを持ち、その魅力を周囲や子どもたちに伝えられる農家になりたいと考えています。学生時代から農家を志していたものの、一般的な会社員とは異なる働き方に将来への不安を抱いていた時期もありました。

現在も、農業を取り巻く環境は層厳しさを増しています。その中でも前向きに農業に取り組み、より多くの人に農業という職業の魅力を感じてもらえるよう、努力を続けていきたいです。

### 人物 memo

三笠市大里  
加勢 貴啓 さん(29歳)

父の勝善さん、母の弘美さんの家族3人で約25haの農地に水稲やキュウリ、カボチャを栽培。青森県の大学を卒業した後、社会経験を積むために路線バスの運転手として就職。3年間勤務した後、25歳で農業の道へ進みました。

現在は青年部三笠班の班長、岩見沢支部の役員を務め、充実した生活を送っています。